

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年3月3日～3月9日)

2020年3月11日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領, アンドレイ・ルィバコフ石油化学コンツェルン・ベルネフチェヒム会長, ユーリー・ナザロフ副首相と会談。(3/7)

●ルカシェンコ大統領, リャシェンコ副首相を解任, ナザロフ新副首相を任命。(3/3)

●2019年, ロシアの対ベラルーシ投資, 2018年対比半減。

【ルカシェンコ大統領動静】

●閣僚会議に参加(3/9)

参加者は, 財政状況の悪い企業の従業員の権利保障, 包装材の回収・加工・再利用, 電動車両の使用に関連する各種法案について協議した。

(3/9 大統領公式ホームページ)

●アンドレイ・ルィバコフ石油化学コンツェルン・ベルネフチェヒム会長, ユーリー・ナザロフ副首相と会談。(3/7)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り

・議題は, 石油をはじめとする原料の調達である。私の元へ, 石油供給・精製の提案が頻繁に来る。幸いなことに, 提案数は少なく無い。どのように石油を買うべきか, どのように行動すると経済的利益があるのか, あなた方と相談したい。

・一刻の猶予もないため, あなた方を休日にお呼びした。我々は決定を下す必要があり, 月曜, 火曜には石油を買い取る必要がある。その総量は, 6百万トンである。

(3/7 大統領公式ホームページ)

●ザシ集団安全保障条約機構(CSTO)議長と会談 ルカシェンコ大統領の発言要旨は, 以下の通り。

・今年, ベラルーシは全ての統合組織の長を担う運命となり, 我々はこれをしかるべき形で行っていく。我々は, これまで同様, 統合プロセスに忠実である。しかし, 我々の利益を求めていく。貴議長は, 誰が, 統合者の周りにはいる各共和国を, この超実用主義的姿勢へ駆り立てたのか知っているであろう。

・CSTO 含め, 全ての統合プロセスにおいてベラルーシの利益は保護される必要がある。我々の利益は, ロシア, 及び CSTO 加盟国の利益と一致している。我々の南の重要な隣国であるウクライナの利益とも矛盾しているわけではない。我々はウクライナが平和で安全であるために全てを行ってきたし, 今後も取り組んでいく。これは, 我々ベラルーシ国民のメンタリテイから出た姿勢である。

・今年, ロシアが CSTO 会議を執り行う。集団安全保障条約の国際舞台での権威性強化ならびに他の組織との相互協力のため, ベラルーシが提案したパートナー組織との法的ステータスの形成やオブザーバーの設置に関し, 進捗状況はどうなっているか。定例会議にて解決を目指したい。

・職員補充に関する必要性がある場合, 定例会にて提唱するので言ってほしい。プーチン露大統領や他国首脳と協議したい。事務局が機能すれば, CSTOも機能するであろう。

(3/5 大統領公式ホームページ)

●マトヴィエンコ露上院議長と会談し, フランシスコ・スコーリン勲章を授与。

(3/5 大統領公式ホームページ)

●リャシェンコ副首相を解任, ナザロフ新副首相を任命(3/3)

3日, ルカシェンコ大統領は, 以下の政府高官人事に関する大統領令に同日付で署名し, イーゴリ・リャシェンコ副首相は他の職務への異動のため解任, ユーリー・ナザロフ氏が新たに副首相に任命された。

(3/3 大統領公式ホームページ)

●2020年及び将来に向けた石油精製施設の効率的運営に関する会議に参加。

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・現状、ベラルーシは、毎月100万トンの石油不足に陥っている。問題は、誰かが石油のバルブを握っていることだけではない。石油調達先の多角化をしてこなかった我々の責任でもある。

・一方で、現在我々の置かれた状況は、有益なのかもしれない。我々は、実際にいくつかの供給者に頼り続けてきた。結果、長期的な代替可能な供給元を持っていない。しかし石油は独占された商品ではない。ロシア国内でさえ、我々とともに取り組みたいと考えるものもある。供給元を見つける。これが我々の最大の課題である。ロシアの中国への石油供給は3分の1に減少した。世界中で石油価格が落ちている。この状況は、我々にとって良い方向に働く。ロシアあるいは代替国における供給元との合意を促すであろう。

・ロシア産石油をせがむために12月31日に跪くことはない。独占市場がなくなれば、価格合意が容易になるだろう。

・原料調達と物流の多角化が課題となる。1つがオデッサ～ブロディ間の石油パイプラインを通じたウクライナ経由ルート、そして二つ目がバルト海港湾を使用したルートとなろう。仮に我々が石油供給元の多角化をできたとしても、少なくとも40%、あるいは50%は、ロシア産の石油となるであろう。しかし、ウクライナ経由、バルト海経由でそれぞれ約30%を購入すれば、供給元を3つに分けることができる。

・バルト海経由の石油調達には、パイプライン建設の必要があるが、それは問題とならない。また、ポンペオ米国国務長官は、競争力のある価格で石油を販売する用意があると述べた。ミュンヘン安全保障会議では、米国が物流網建設のため10億ドルの融資をする準備があると発表があった。それを原資にパイプラインを敷設する。連結部分の建設も必要になるが、それは、1年半～2年以内に完工させるとして、同建設に必要な100～120百万ドルは自身で見つけよう。

(3/3 大統領公式ホームページ)

【外交】

●ルマス首相、ミシュスティン露首相と電話会談(3/6)

両者は、4月10日予定されているユーラシア政府委員会会合の準備、ユーラシア経済同盟における加盟国の経済効率向上、生活の改善に向けたデジタル領域の課題について協議した。

(3/6 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、シーアルトー・ハンガリー外務大臣と会談(3/3)

両者は、2020年外務省間協カプログラムに署名した。

会談後、記者会見におけるシーアルトー・ハンガリー外務大臣の発言要旨は以下の通り。

・東方パートナーシップは、対話の原則で成り立っている。ハンガリーは、欧州とベラルーシの関係が損なわれないよう尽力する。ベラルーシの内政に意見や批判を表明することは我々の課題ではない。

・原発建設について、国際原子力機関の規則があり、我々は、全ての安全保障規則を尊重する。ハンガリー及びベラルーシは、近隣諸国をはじめとして批判の対象となることを常に考慮に入れる必要がある。例えば、オーストリアは、欧州委員会のハンガリー国内の原発建設許可に反対して提訴した。我々が唯一できることは、規則の遵守である。

・4月、二国間経済委員会が予定されており、ハンガリー農業分野へのベラルーシの投資について協議される。

(3/3 ベラパン通信)

●ベラルーシ国立大学内の孔子学院にて、「青年中国研究学校」会合が実施

同会議の主要議題となった、現代中国研究の優先分野、およびベラルーシの中国研究学校設立に向けた焦眉の課題は、ベラルーシの主要教育機関の大学院生及び学部生の注目を集めた。アナトリー・トジック同院長は全体会合において、「中国はベラルーシにとって優先的パートナーであり、信頼できる友である。

両国家は、活発な両国交流をさらに発展させていく。共同プロジェクトとして最たる例である、ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」は、一帯一路における重要な鎖となった。」と発言した。同会合には、ヤン・ガン産業特区発展公社 CEO、ルーディ前駐中国ベラルーシ大使も同席した。

(3/3 ベルタ通信)

経済

【対外経済】

●第一回ベラルーシ・インド投資フォーラム実施

観光分野を中心に多数の覚書が署名された。ベラルーシからはウチュピン産業大臣が参加。ベラルーシは、インドにおけるカリ肥料の安定した供給者である。2019年7月には、積載量136トン、240トンのダンプトラックがそれぞれ77台、96台供給された。

(3/9 ベラパン通信)

●原油価格暴落を受け、一時1ドル=2.40ベラルーシルーブルまでドル高ベラルーシルーブル安が進行。

(3/9 ベラパン通信)

●露 Sovcombank、ベラズ社に自動車工場建設のため6千万ユーロの融資提供。

(3/7 ベラパン通信)

●欧州復興開発銀行(EBRD)、MTBank(ベラルーシ最大民間銀行)に中小企業支援のため2000万ベラルーシルーブルの融資提供を決定。

(3/6 ベラパン通信)

●ベラルーシ向けのロシア産石油、リトアニアのクライペダ港に到着。

ベラルーシは、2月にロシア石油企業とクライペダ港経由のロシア産石油16万トンの購入を決定した。今後、ロシア石油企業6社がパイプライン「ドルジバ」経由でベラルーシに石油を供給予定。また、ベラルーシは、3月にアゼルバイジャンから原油17万トンを購入予定である。

(3/4 ベラパン通信)

●国際原子力機関(IAEA)、ベラルーシ第三回統合原子力基盤レビュー(INIR)実施。

同レビューの結果、7つの勧告、5つのグッドプラクティスが指摘された。

(3/4 ベラパン通信)

●英国代表団、ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」を視察。

同視察には、英国外務省、ノッティンガム市役所、コヴェントリー・ヴォリック地区中小企業支援センター、輸送関連の英国企業が参加した。

(3/4 「巨石」公式ホームページ)

●2019年、ロシアの対ベラルーシ投資、2018年対比半減。

2018年ロシアの対ベラルーシ投資額は5億250万ドルであったが、2019年は2億6360万ドルであった。

(3/3 ベラパン通信)

内政・治安

●3名殺害の罪でスルツク市の男性に死刑判決

(3/6 ベラパン通信)

●フレニン国防大臣、メーゼンツェフ駐ベラルーシ露大使と会談

両者は、二国間協力の現況を分析し、有望な方向を協議した。第9回モスクワ国際安全保障会議、国際アーミーゲーム、第6回国際軍事技術フォーラム、露ベラルーシ国防省共同会議等の2020年に開催予定の行事に対し、注意が割かれた。また、大祖国戦争勝利75周年行事の準備についても協議された。

(3/3 ベラパン通信)

(了)